

板橋中央総合病院臨床研修病院群基本研修プログラム

各診療科別研修プログラム

到達目標について

医師は、病める人の尊厳を守り、医療の提供と公衆衛生の向上に寄与する職業の重大性を深く認識し、医師としての基本的価値観（プロフェッショナリズム）及び医師としての使命の遂行に必要な資質・能力を身に付けなくてはならない。医師としての基盤形成の段階にある研修医は、基本的価値観を自らのものとし、基本的診療業務ができるレベルの資質・能力を習得すること。

到達目標（※）

A. 医師としての基本的価値観（プロフェッショナリズム）

以下の項目は各科共通項目とする。

- (1) 社会的使命と公衆衛生への寄与
- (2) 利他的態度
- (3) 人間性の尊重
- (4) 自らを高める姿勢

B. 資質・能力

以下の項目は各科共通項目とする。

- (1) 医学・医療における倫理性
- (2) 医学知識と問題対応能力
- (3) 診療技能と患者ケア
- (4) コミュニケーション能力
- (5) チーム医療の実践
- (6) 医療の質と安全管理
- (7) 社会における医療の実践
- (8) 科学的探究
- (9) 生涯にわたって共に学ぶ姿勢

C. 基本的診療業務

別紙「医師臨床研修プログラムの研修分野別マトリックス票」により、基本的診療業務を割り当てるものとする。

- (1) 一般外来診療
- (2) 病棟診療
- (3) 初期救急対応
- (4) 地域医療

オリエンテーション（板橋中央総合病院）

一般目標

板橋中央総合病院における臨床研修を効果的・効率的に行うために、病院の理念と歴史、研修システムを理解し、診療に必須の手順・態度を身に付ける。

到達目標

A. 医師としての基本的価値観（プロフェッショナリズム）

各科共通項目

B. 資質・能力

各科共通項目とする。

C. 基本的診療業務

別紙「医師臨床研修プログラムの研修分野別マトリックス票」により、基本的診療業務を割り当てるものとする。

研修方略

- ・ 初期臨床研修医入門コースにて講習会及び実習に参加
入職後4月初日より実施

ビジネスマナーについて	セフティマネジメント	初期臨床研修について
医療安全	縫合実習	保険診療について
感染管理	電子カルテ研修	採血・注射実習
板橋中央総合病院について	N S Tについて	BLS 講習
医師としての心得	感染対策及び医療技術	個人情報保護について
社会人としての心得	栄養学	地域医療連携について
救急医療について	輸血の取り扱い	カルテ記載について
症例レポート書き方	血液型・グラム染色	プレゼンテーションの仕方
接遇研修	輸血ポンプ、医療機器	病歴管理について
初期臨床研修について	B L S 講習	看護部研修

- ・ レポート（病歴要約含む）提出(55 症例)
- ・ インシデントレポート 8 枚以上

評価方法

- 1、プログラム責任者による形成的評価と総括的評価
- 2、レポートの評価は各診療科の指導医による評価とし、修了までに全レポート症例を提出し、評価を受ける。
- 3、インシデントレポート 8 枚以上を必須とする。

消化器内科（板橋中央総合病院）

一般目標

将来救急医療の場で活躍できる医師となるために、消化器内科領域のみならず、内科領域の部分についても、基本的臨床能力（知識、技能、態度）を身に付ける。

到達目標

A. 医師としての基本的価値観（プロフェッショナリズム）

各科共通項目

B. 資質・能力

各科共通項目とする。

C. 基本的診療業務

別紙「医師臨床研修プログラムの研修分野別マトリックス票」により、基本的診療業務を割り当てるものとする。

週間予定

	8:30	9	10	11	12	13	14	15	16	17	17:30	
月曜日	カンファレンス	救急当番				昼食	病棟業務				外科・消化器科カンファレンス	
火曜日	抄読会	病棟業務				昼食	救急当番					
水曜日	カンファレンス	病棟業務				昼食	救急当番					
木曜日	カンファレンス	救急当番				昼食	病棟業務					
金曜日	カンファレンス	救急当番				昼食	病棟業務					
土曜日	カンファレンス	救急当番										

研修方略

- 1) 指導医である主治医とペアを組み、担当医となる。
- 2) 毎週月曜日の入院カンファにて、プレゼンテーションを行う。
- 3) 早朝ショートカンファにて、短時間の患者プレゼンテーションを行う。
- 4) 毎週火曜日の抄読会で、少なくとも1編の英語論文を抄読する。
- 5) ER 担当医とペアを組み、ER での患者受け入れを行う。
- 6) 病棟回診を上級医と行う。
- 7) 上部消化管内視鏡はシュミレーターを使用して訓練する。
- 8) 腹部血管造影は介助者を経験する。
- 9) 下部消化管内視鏡、ERCP に関しては、見学し、術前・術後管理を身に付ける。

- 10) 腹水穿刺、CV カテーテル挿入、胃管挿入などの手技は指導医とともに実施する。
- 11) 消化器内科に関連した症例レポートを作成する。
- 12) 受け持った入院患者の退院サマリーを記載し、指導医のチェックを受ける。

評価方法

- 1. 研修医は自己評価を EPOC2 に記入する。
- 2. 各科研修終了時に研修責任者が各科研修評価表 (EPOC2) に記載する。
- 3. 各科研修終了時に看護部、コメディカルは研修医評価票に記載する。
- 4. 2 年修了までに「症例レポート (病歴要約)」を提出する。

呼吸器内科 (板橋中央総合病院)

一般目標

全人的医療を実践できる医師となる為に、呼吸器領域における基本的臨床能力 (態度・技能・知識) を身に付ける。

到達目標

A. 医師としての基本的価値観 (プロフェッショナリズム)

各科共通項目

B. 資質・能力

各科共通項目とする。

C. 基本的診療業務

別紙「医師臨床研修プログラムの研修分野別マトリックス票」により、基本的診療業務を割り当てるものとする。

週間予定

	8:30	9	10	11	12	13	14	15	16	17	17:30	
月曜日	カンファレンス、回診		救急当番			昼食	病棟業務				カンファレンス	
火曜日	カンファレンス、回診		病棟業務			昼食	気管支鏡	救急当番	カンファレンス、			
水曜日	カンファレンス、回診		病棟業務			昼食	救急当番					
木曜日	カンファレンス、回診		救急当番			昼食	病棟業務					
金曜日	カンファレンス、回診		救急当番			昼食	気管支鏡	病棟業務				
土曜日	カンファレンス、回診		救急当番									

研修方略

- ・ 指導医である主治医とペアを組み、副主治医（担当医）となる
- ・ 専門医指導のもと救急搬送患者の初期対応を行い、基本的診療手技を身に付ける。
- ・ カンファレンスでのプレゼンテーションを行う。
- ・ 病棟回診 上級医と共に受け持ち患者の回診をする。
- ・ 検査実習を行う
- ・ 退院時にはサマリーを作成し、指導医・病棟責任者のチェックを受ける。
- ・ 受け持った入院患者の退院サマリーを記載し、指導医のチェックを受ける。
- ・ 外来で指導医と診療を担当する。

評価方法

1. 研修医は自己評価を EPOC2 に記入する。
2. 各科研修終了時に研修責任者が各科研修評価表 (EPOC2) に記載する。
3. 各科研修終了時に看護部、コメディカルは研修医評価票に記載する。
4. 2年修了までに「症例レポート（病歴要約）」を提出する。

循環器内科（板橋中央総合病院）

一般目標

循環器内科領域において、地域に根差した、患者本位の医療を実践できる医師となるために、基本的臨床能力を身に付ける。

チーム医療を実践するため、医師患者関係のみならず、コメディカルスタッフとのコミュニケーションを向上させる。

到達目標

A. 医師としての基本的価値観（プロフェッショナリズム）

各科共通項目

B. 資質・能力

各科共通項目とする。

C. 基本的診療業務

別紙「医師臨床研修プログラムの研修分野別マトリックス票」により、基本的診療業務を割り当てるものとする。

研修方略

循環器内科では、チーム制で専門医の指導のもと入院患者の受け持ちを行う。

病棟業務では、基本的な診療手技や投薬方法を身に付ける。心臓血管領域の検査については積極的に参画し、検査の意義や治療方針について理解する。

カンファレンスにおける受け持ち患者のプレゼンテーション、心電図や心エコーのミニレクチャー。

週1回 月曜8時からの抄読会の参加、発表。

受け持ち患者の退院サマリーの記載と指導医のチェック。

週間予定

	8:30	9	10	11	12	13	14	15	16	17	17:30
月曜日	カンファレンス	回診、病棟業務				昼食	病棟業務				カンファレンス
火曜日	回診	病棟業務				昼食	病棟業務				カンファレンス
水曜日	回診	病棟業務				昼食	病棟業務				カンファレンス
木曜日	回診	病棟業務				昼食	病棟業務				カンファレンス
金曜日	回診	病棟業務				昼食	病棟業務				心外合同 カンファレンス
土曜日	カンファレンス	回診、病棟業務									

評価方法

1. 研修医は自己評価を EPOC2 に記入する。
2. 各科研修終了時に研修責任者が各科研修評価表 (EPOC2) に記載する。
3. 各科研修終了時に看護部、コメディカルは研修医評価票に記載する。
4. 2年修了までに「症例レポート (病歴要約)」を提出する。

総合診療科 (板橋中央総合病院)

一般目標

日常的に頻度の高い疾病や障害に対して、適切な初期対応を施し、必要に応じて各専門科と連携しつつ、包括的かつ継続的な医療を全人的に提供出来る医師になる。また、コンサルテーションや医療連携が可能な状況下で、単独で一般外来診療を行える医師になる。

到達目標

A. 医師としての基本的価値観 (プロフェッショナリズム)

各科共通項目

B. 資質・能力

各科共通項目とする。

C. 基本的診療業務

別紙「医師臨床研修プログラムの研修分野別マトリックス票」により、基本的診療業務を割り当てるものとする。

研修方略

- ・総合診療科は、チーム制を敷き、3チームに分かれ病棟、日中 ER、外来業務を行う。
※月初めにチーム振り分けが行われ、研修医が入るチームが決定する。
- ・専門医指導のもと救急搬送患者の初期対応を行い、基本的診療手技を身に付ける。
- ・カンファレンスでのプレゼンテーション
- ・病棟回診 OJTによる上級医・指導医と共に受け持ち患者の回診
- ・受け持った入院患者の退院サマリーを記載し、指導医のチェックを受ける。
- ・チームカンファレンスにて診療録のチェックなど1日のまとめを行う。
- ・病棟回診でのプレゼンテーション
- ・検査実習を行う。

一般外来研修

- ・指導医・上級医のもとに診療を行う
- ・週2日～3日内科初診外来にて行っている。

※外来実施方法については、別紙「フローチャート」にて記載

週間予定

	8:30	9	10	11	12	13	14	15	16	17	17:30
月曜日	回診	一般外来(回診・病棟)			昼食	病棟	カンファレンス	一般外来、病棟業務			チーム カンファレンス
火曜日	回診、病棟業務				昼食	病棟	カンファレンス	病棟業務			チーム カンファレンス
水曜日	回診、病棟業務				昼食	病棟	カンファレンス	病棟業務			チーム カンファレンス
木曜日	回診	一般外来(回診・病棟)			昼食	病棟	レクチャー	一般外来、病棟業務			チーム カンファレンス
金曜日	回診、病棟業務				昼食	病棟	カンファレンス	病棟業務			チーム カンファレンス
土曜日	回診、病棟業務										

評価方法

1. 研修医は自己評価を EPOC2 に記入する。
2. 各科研修終了時に研修責任者が各科研修評価表(EPOC2)に記載する。
3. 各科研修終了時に看護部、コメディカルは研修医評価票に記載する。
4. 2年修了までに「症例レポート(病歴要約)」を提出する。

外科（板橋中央総合病院）

一般目標

入院から退院まで関わることで、診察・診断・治療・フォローアップなどに必要な外科基本的臨床能力（知識、技能、態度）を、そして外科救急領域でのプライマリーケア能力を身に付ける。

到達目標

A. 医師としての基本的価値観（プロフェッショナリズム）

各科共通項目

B. 資質・能力

各科共通項目とする。

C. 基本的診療業務

別紙「医師臨床研修プログラムの研修分野別マトリックス票」により、基本的診療業務を割り当てるものとする。

研修方略

- ①チーム診療制の中で副主治医として実際の診療に関わる。
- ②指導医のもと救急搬送患者の初期対応を行い、基本的診療手技を身に付ける。
- ③病棟回診 外科全患者を上級医とともに回診。チーム内の患者は上級医とともに詳細に病状を把握しながら回診を行う。
- ④指導医のもと、手術患者の術前、術後、術後管理を行う。
- ⑤研修中2ヶ月間で最低40症例の手術に助手として経験する。
- ⑥研修中2ヶ月間で最低1例以上の虫垂炎切除術を術者として経験する。
- ⑦その他にも簡単な小手術や基本手術手技（CVポート挿入、切開、縫合）を可能な限り術者として経験する。
- ⑧胸水・腹水穿刺、CVカテーテル挿入、胃管挿入、尿道カテーテル挿入などの手技を指導医とともに実施する。
- ⑨検査、治療的検査（PTCD、イレウス管挿入、内視鏡検査・治療など）は見学、介助を行い、その手技の意義、方法、術前・術後管理を理解する。
- ⑩毎週月曜日の術前カンファレンスに参加し、指導医とともに提示症例のまとめを行う。指導医より指定された症例はプレゼンテーションを行う。
- ⑪毎週火曜日の術後カンファレンスに参加し、手術患者の手術手技の実際を把握する。自分が執刀した症例のプレゼンテーションを行う。
- ⑫毎週火曜日の入院患者カンファレンスに参加し、問題ある患者に対する治療戦略を学ぶ。また、他部門との関わりを理解する。
- ⑬隔週水曜日の抄読会に参加し最新の外科知識を学ぶとともに、自分でも1編を抄読する。
- ⑭緩和ケアチームの医師の指導のもと緩和ケアを必要とする患者を担当し、緩和ケアについて学ぶ。

週間予定

	8:30	9	10	11	12	13	14	15	16	17	17:30
月曜日	術前カンファレンス	手術 又は 病棟回診 (昼休憩適宜)									カンファレンス
火曜日	手術 又は 病棟回診 (昼休憩適宜)										カンファレンス
水曜日	抄読会	手術 又は 病棟回診 (昼休憩適宜)									
木曜日	手術 又は 病棟回診 (昼休憩適宜)										
金曜日	手術 又は 病棟回診 (昼休憩適宜)										
土曜日	手術 又は 病棟回診										

評価方法

1. 研修医は自己評価を EPOC2 に記入する。
2. 各科研修終了時に研修責任者が各科研修評価表 (EPOC2) に記載する。
3. 各科研修終了時に看護部、コメディカルは研修医評価票に記載する。
4. 2年修了までに「症例レポート (病歴要約)」を提出する。

救急科 (板橋中央総合病院)

一般目標

将来、全人的医療を実践できる医師となるために、救急領域における基本的臨床能力 (態度・技能・知識) を身に付ける。

到達目標

A. 医師としての基本的価値観 (プロフェッショナリズム)

各科共通項目

B. 資質・能力

各科共通項目とする。

C. 基本的診療業務

別紙「医師臨床研修プログラムの研修分野別マトリックス票」により、基本的診療業務を割り当てるものとする。

研修方略

- ・ 専門医指導のもと救急搬送患者の初期対応を行い、基本的診療手技を身に付ける。
- ・ 臓器や診療科に関わらず、基本的な診察法や検査所見の診方、治療の考えを学ぶ。
- ・ 心肺蘇生法、救急処置を習得する。
- ・ 経験した患者のレポートを作成する。

週間予定

月曜日～金曜日 8:30 ～ 17:30 救急外来対応
土曜日 8:30 ～ 15:00 救急外来対応

評価方法

1. 研修医は自己評価を EPOC2 に記入する。
2. 各科研修終了時に研修責任者が各科研修評価表 (EPOC2) に記載する。
3. 各科研修終了時に看護部、コメディカルは研修医評価票に記載する。
4. 2年修了までに「症例レポート (病歴要約)」を提出する。

脳神経外科 (板橋中央総合病院)

一般目標

全人的医療を実践できる医師となる為に、脳神経外科領域における基本的臨床能力 (態度・技能・知識) と救急対応能力を身に付ける。

到達目標

A. 医師としての基本的価値観 (プロフェッショナリズム)

各科共通項目

B. 資質・能力

各科共通項目とする。

C. 基本的診療業務

別紙「医師臨床研修プログラムの研修分野別マトリックス票」により、基本的診療業務を割り当てるものとする。

研修方略

専門医指導のもと救急搬送患者の初期対応を行い、基本的診療手技を身に付ける。

カンファレンスでのプレゼンテーション

病棟回診：上級医・指導医と共に受け持ち患者の回診し、問題点を把握できている。

検査実務：脳血管撮影、腰椎穿刺などにつき手順を学ぶ。

手術関連業務：指導医の下、術前・術中・術後管理を行う。

研修中、指導医の下、穿頭などの手術手技を経験する。

週間予定

	8:30	9	10	11	12	13	14	15	16	17	17:30	
月曜日	カンファレンス	回診	病棟業務			昼食	SCU カンファレンス	病棟業務			カンファ レンス	
火曜日	カンファレンス	回診	病棟業務			昼食	病棟業務					
水曜日	カンファレンス	回診	病棟業務			昼食	病棟業務					
木曜日	カンファレンス	回診	手術			昼食	病棟業務、手術					
金曜日	カンファレンス	回診	手術、病棟業務			昼食	リハビリ カンファレンス	病棟業務				
土曜日	カンファレンス	回診	病棟業務									

評価方法

1. 研修医は自己評価を EPOC2 に記入する。
2. 各科研修終了時に研修責任者が各科研修評価表 (EPOC2) に記載する。
3. 各科研修終了時に看護部、コメディカルは研修医評価票に記載する。
4. 2 年修了までに「症例レポート (病歴要約)」を提出する。

整形外科 (板橋中央総合病院)

一般目標

あらゆる運動器に関する科学的知識と高い倫理観、幅広い基本的な臨床能力を身に付ける。

到達目標

A. 医師としての基本的価値観 (プロフェッショナリズム)

各科共通項目

B. 資質・能力

各科共通項目とする。

C. 基本的診療業務

別紙「医師臨床研修プログラムの研修分野別マトリックス票」により、基本的診療業務を割り当てるものとする。

研修方略

救急搬送患者の初期対応を行い、基本的診療手技を身に付ける。
週一回の勉強会に参加し、月に一度プレゼンテーションを行う。
手術患者カンファレンスでの症例プレゼンテーション 1 例/週 程度
周術期管理等指導医の下、術前から術後までの管理を行う。

週間予定

	8:30	9	10	11	12	13	14	15	16	17	17:30
月曜日	カンファレンス	手術				昼休憩	病棟業務				
火曜日	手術				昼休憩	病棟業務、手術					
水曜日	手術				昼休憩	病棟業務、手術					
木曜日	リハビリ カンファ	手術				昼休憩	手術				
金曜日	抄読会	手術				昼休憩	病棟業務、手術				
土曜日	病棟業務										

評価方法

1. 研修医は自己評価を EPOC2 に記入する。
2. 各科研修終了時に研修責任者が各科研修評価表 (EPOC2) に記載する。
3. 各科研修終了時に看護部、コメディカルは研修医評価票に記載する。
4. 2 年修了までに「症例レポート (病歴要約)」を提出する。

産婦人科 (板橋中央総合病院)

一般目標

全人的医療を実践できる医師となる為に、産婦人科領域における基本的臨床能力 (態度・技能・知識) と救急対応能力を身に付ける。

到達目標

A. 医師としての基本的価値観 (プロフェッショナリズム)

各科共通項目

B. 資質・能力

各科共通項目とする。

C. 基本的診療業務

別紙「医師臨床研修プログラムの研修分野別マトリックス票」により、基本的診療業務を割り当てるものとする。

研修方略

外来、病棟において上級医とともに診療にあたる。
病棟回診 上級医と共に受け持ち患者の回診をする。
手術関連業務、術前・術中・術後管理を行う。

週間予定

	8:30	9	10	11	12	13	14	15	16	17	17:30
月曜日	カンファレンス	手術(分娩、手技) (昼休憩適宜)									
火曜日	カンファレンス	手術 (昼休憩適宜)				カンファ レンス	手術、病棟業務(分娩、手技)				
水曜日	カンファレンス	病棟業務 又は 手術(分娩、手技) (昼休憩適宜)									
木曜日	病棟業務(分娩、手技)(昼休憩適宜)										
金曜日	病棟業務(分娩、手技)					昼休憩	手術(分娩、手技)				
土曜日	病棟業務(分娩、手技)										

評価方法

1. 研修医は自己評価を EPOC2 に記入する。
2. 各科研修終了時に研修責任者が各科研修評価表(EPOC2)に記載する。
3. 各科研修終了時に看護部、コメディカルは研修医評価票に記載する。
4. 2年修了までに「症例レポート(病歴要約)」を提出する。

小児科

一般目標

全人的医療を実践できる医師となる為に、小児科領域における基本的臨床能力(態度・技能・知識)を身に付ける。

到達目標

A. 医師としての基本的価値観(プロフェッショナリズム)

各科共通項目

B. 資質・能力

各科共通項目とする。

C. 基本的診療業務

別紙「医師臨床研修プログラムの研修分野別マトリックス票」により、基本的診療業務を割り当てるものとする。

研修方略

- ・副主治医制をとり、受け持った入院患者の退院サマリーを記載し、指導医のチェックをうける。
- ・指導医・上級医の指導のもと一般外来診療を行う。
- ・カンファレンスでのプレゼンテーションを行う。
- ・ERにて指導医の指導のもと小児科患者の診療を行う。

週間予定

	8:30	9	10	11	12	13	14	15	16	17	17:30
月曜日	カンファレンス	回診	病棟業務			昼休憩	病棟業務(外来)			カンファレンス、回診	
火曜日	カンファレンス	回診	病棟業務(外来)			昼休憩	病棟業務(外来)			回診	
水曜日	カンファレンス	回診	病棟業務			昼休憩	病棟業務(外来)			回診	
木曜日	カンファレンス	回診	病棟業務(外来)			昼休憩	病棟業務(外来)	回診		合同カンファレンス	
金曜日	カンファレンス	回診	病棟業務(外来)			昼休憩	病棟業務(外来)			回診	
土曜日	病棟業務、回診										

評価方法

1. 研修医は自己評価を EPOC2 に記入する。
2. 各科研修終了時に研修責任者が各科研修評価表 (EPOC2) に記載する。
3. 各科研修終了時に看護部、コメディカルは研修医評価票に記載する。
4. 2年修了までに「症例レポート (病歴要約)」を提出する。

腎臓内科（板橋中央総合病院）

一般目標

全人的医療を実践できる医師となる為に、血液浄化療法全般及び腎臓内科領域における基本的臨床能力（態度・技能・知識）を身に付ける。

到達目標

A. 医師としての基本的価値観（プロフェッショナリズム）

各科共通項目

B. 資質・能力

各科共通項目とする。

C. 基本的診療業務

別紙「医師臨床研修プログラムの研修分野別マトリックス票」により、基本的診療業務を割り当てるものとする。

研修方略

- ・専門医指導のもとで血液浄化療法を受ける患者（入院・外来）の診療を行い、診療の基本、臨床検査所見の正しい把握、プロブレムリストの作成と更新を学ぶ。
- ・慢性血液浄化療法の仕組みと実施法を学び、適応を含めた治療計画の策定、実施中の血行動態管理、効果の判定を行う。
- ・急性血液浄化療法の仕組みと実施法を学び、適応を含めた治療計画の策定、実施中の血行動態管理、効果の判定を行う。
- ・透析室回診を上級医・指導医と行い、合併症の治療と浄化療法の管理法を学び、カルテ記載を行う。
- ・腎臓内科カンファレンス及び病棟回診に参加し、血液浄化療法以外の腎臓内科領域の入院加療を学ぶ。
- ・腎生検を見学し、腎病理所見を学ぶ。
- ・アクセス作成の見学、腎移植の見学。
- ・ミニレクチャー

週間予定

	8:30	9	10	11	12	13	14	15	16	17	17:30
月曜日	症例カンファレンス 病棟回診	透析回診			昼食	ミニレクチャー —	病棟業務、手術(手技)				
火曜日	症例カンファレンス 病棟回診	透析回診		昼食	アクセス作成見学	病棟業務、手術(手技)					
水曜日	症例カンファレンス 病棟回診	透析回診			昼食	病棟業務、手術(手技)					
木曜日	症例カンファレンス 病棟回診	透析回診			昼食	病棟業務、手術(手技)					
金曜日	症例カンファレンス 病棟回診	透析回診	腎生検		昼食	病理 カンファレンス		病棟業務			
土曜日	症例カンファレンス 病棟回診	透析回診									

評価方法

1. 研修医は自己評価を EPOC2 に記入する。
2. 各科研修終了時に研修責任者が各科研修評価表 (EPOC2) に記載する。
3. 各科研修終了時に看護部、コメディカルは研修医評価票に記載する。
4. 2年修了までに「症例レポート (病歴要約)」を提出する。

腎臓外科・腎移植 (板橋中央総合病院)

一般目標

①豊かな人間性の陶冶、②幅広い見識のかん養、③それを基礎とした上で高度かつ専門的な知識および技術の習得、④因習にとらわれず常に科学的に真実を追求する姿勢の確立、⑤使命感と責任感をもって患者本位の全人的医療を目指すべく、次世代の医療を担う医師を育成すること。

到達目標

A. 医師としての基本的価値観 (プロフェッショナリズム)

各科共通項目

B. 資質・能力

各科共通項目とする。

C. 基本的診療業務

別紙「医師臨床研修プログラムの研修分野別マトリックス票」により、基本的診療業務を割り当てるものとする。

研修方略

- ・担当医制、指導医指導のもと腎不全患者の基本的診療手技を身に付ける。病態、治療方針についてプレゼンテーションを行う。
- ・透析アクセス関係の検査実習を行う。
- ・手術関連 指導医の指導のもと、透析アクセス手術、腎移植手術の術前・術中・術後の管理を行う。
- ・退院時受け持ち患者のサマリーを記載し、指導医の確認を受ける。

週間予定

	8:30	9	10	11	12	13	14	15	16	17	17:30
月曜日	手術(手技等(PTA))					昼休憩	手術(手技等(PTA))				
火曜日	腎移植					昼休憩	腎移植				
水曜日	手術(手技等(PTA))					昼休憩	手術(手技等(PTA))				
木曜日	手術(手技等(PTA))					昼休憩	手術(手技等(PTA))				
金曜日	手術(手技等(PTA))					昼休憩	病棟業務、手術				
土曜日	病棟業務										

評価方法

1. 研修医は自己評価を EPOC2 に記入する。
2. 各科研修終了時に研修責任者が各科研修評価表 (EPOC2) に記載する。
3. 各科研修終了時に看護部、コメディカルは研修医評価票に記載する。
4. 2 年修了までに「症例レポート (病歴要約)」を提出する。

脳神経内科 (板橋中央総合病院)

一般目標

全人的医療を実践できる医師になるために脳血管障害における基本的臨床能力 (態度・技能・知識) を身に付ける。

到達目標

A. 医師としての基本的価値観 (プロフェッショナリズム)

各科共通項目

B. 資質・能力

各科共通項目とする。

C. 基本的診療業務

別紙「医師臨床研修プログラムの研修分野別マトリックス票」により、基本的診療業務を割り当てるものとする。

研修方略

専門医指導のもと脳血管障害患者の初期対応を行い、基本的診療手技を身に付ける。

カンファレンスでのプレゼンテーション。

病棟回診：専門医とともに受け持ち患者の回診をし、問題点を把握する。

検査実務、脳血管撮影等につき手順を学ぶ。

評価方法

1. 研修医は自己評価を EPOC2 に記入する。
2. 各科研修終了時に研修責任者が各科研修評価表 (EPOC2) に記載する。
3. 各科研修終了時に看護部、コメディカルは研修医評価票に記載する。
4. 2 年修了までに「症例レポート (病歴要約)」を提出する。

呼吸器外科（板橋中央総合病院）

一般目標

全人的医療の一部を担う呼吸器分野において、特にその外科的な基本的能力を習得することを目標とする。

到達目標

A. 医師としての基本的価値観（プロフェッショナリズム）

各科共通項目

B. 資質・能力

各科共通項目とする。

C. 基本的診療業務

別紙「医師臨床研修プログラムの研修分野別マトリックス票」により、基本的診療業務を割り当てるものとする。

研修方略

- ・主治医
- ・専門医指導のもとに呼吸器外科分野の初期対応、手技を身に付ける。
- ・カンファレンス、プレゼンテーション（毎日）
- ・回診（毎日）病棟管理を行う。
- ・手術関連業務、術前・術中・術後管理を行う。
- ・手術処置（胸腔ドレナージ、気管切開、気管支鏡、気胸手術）
- ・抄読会に担当として参加（週に1回）
- ・ダヴィンチ見学。

週間予定

	8:30	9	10	11	12	13	14	15	16	17	17:30
月曜日	カンファレンス	手術、回診、処置				昼食	術前検討		夕回診		
火曜日	カンファレンス	回診、処置				昼食	病棟業		夕回診		
水曜日	カンファレンス	手術、回診、処置				昼食	病棟業務		夕回診		
木曜日	カンファレンス	手術、回診、処置				昼食	病棟業務		夕回診		
金曜日	カンファレンス	手術、回診、処置				昼食	病棟業務		夕回診		
土曜日	抄読会	手術、回診、処置									

評価方法

1. 研修医は自己評価を EPOC2 に記入する。
2. 各科研修終了時に研修責任者が各科研修評価表 (EPOC2) に記載する。
3. 各科研修終了時に看護部、コメディカルは研修医評価票に記載する。
4. 2年修了までに「症例レポート（病歴要約）」を提出する。

泌尿器科（板橋中央総合病院）

一般目標

泌尿器科では副腎腫瘍、腎癌、腎盂尿管癌、膀胱癌、尿道癌、前立腺癌、陰茎癌、精巣癌などの腫瘍性疾患、腎尿管結石などの尿路結石、急性膀胱炎、急性腎盂炎や急性前立腺炎などの尿路性感染症、過活動膀胱、前立腺肥大症、間質性膀胱炎、男性更年期障害、勃起障害、男性不妊症、慢性腎不全などの診療を行なっている。全人的医療を実践できる医師となるために、これら泌尿器科疾患について基本的臨床能力（知識、技能、態度）を身に付ける。

到達目標

A. 医師としての基本的価値観（プロフェッショナリズム）

各科共通項目

B. 資質・能力

各科共通項目とする。

C. 基本的診療業務

別紙「医師臨床研修プログラムの研修分野別マトリックス票」により、基本的診療業務を割り当てるものとする。

研修方略

- 1) 指導医の指導のもと泌尿器処置、検査や手術に参加する。
- 2) 外来患者の予診、問診を行う。
- 3) 入院患者の検査や治療計画を指導医の指導下に立てる。
- 4) 患者に対する検査や手術の説明に加わり、内容を理解する。
- 5) 病棟カンファレンス（看護師、薬剤師、SW、理学療法士も参加）で担当患者の症例呈示を行う。
- 6) 泌尿器科カンファレンスで担当患者の症例呈示を行う。
- 7) 初歩的な泌尿器的検査、処置（尿路生殖器エコーや残尿測定、導尿等）や手術（包茎手術、精巣摘出術、陰嚢水腫根治術など難易度の低い手術）を指導医の指導のもと実施する。
- 8) 病棟回診を上級医と行う。
- 9) 指導医のもと術前・術後管理を身に付ける。
- 10) 入院患者の診療録、退院サマリーを記載し、指導医のチェックを受ける。

週間予定

	8:30	9	10	11	12	13	14	15	16	17	17:30
月曜日	カンファレンス	手術(前立腺全摘、腎部切)、病棟			昼食	手術、病棟、外来					
火曜日	前立腺生検、外来、病棟（昼休憩適宜）										
水曜日	カンファレンス	手術、外来、病棟（昼休憩適宜）									
木曜日	手術(前立腺全摘)、外来、（昼休憩適宜）										
金曜日	外来、病棟（昼休憩適宜）										
土曜日	前立腺生検										

評価方法

1. 研修医は自己評価を EPOC2 に記入する。
2. 各科研修終了時に研修責任者が各科研修評価表 (EPOC2) に記載する。
3. 各科研修終了時に看護部、コメディカルは研修医評価票に記載する。
4. 2 年修了までに「症例レポート (病歴要約)」を提出する。

血液内科 (板橋中央総合病院)

一般目標

医師としての人格を涵養し、将来専門とする分野にかかわらず、一般的な診療において血液内科領域の疾患に適切に対応できるよう基本的な診療能力を身に付ける。

到達目標

A. 医師としての基本的価値観 (プロフェッショナリズム)

各科共通項目

B. 資質・能力

各科共通項目とする。

C. 基本的診療業務

別紙「医師臨床研修プログラムの研修分野別マトリックス票」により、基本的診療業務を割り当てるものとする。

【研修方略】

- ・カンファレンスでのプレゼンテーション
- ・ミニレクチャー
- ・週一回の抄読会に参加する。
- ・受け持った入院患者の退院サマリーを記載し、指導医のチェックを受ける。
- ・NST 担当医師の指導のもと栄養サポートについて学ぶ。

評価方法

1. 研修医は自己評価を EPOC2 に記入する。
2. 各科研修終了時に研修責任者が各科研修評価表 (EPOC2) に記載する。
3. 各科研修終了時に看護部、コメディカルは研修医評価票に記載する。
4. 2 年修了までに「症例レポート (病歴要約)」を提出する。

麻酔科（板橋中央総合病院）

一般目標

術中の管理ができる医師となる為に、麻酔科領域における基本的臨床能力（態度・技能・知識）を身に付ける。

到達目標

A. 医師としての基本的価値観（プロフェッショナリズム）

各科共通項目

B. 資質・能力

各科共通項目とする。

C. 基本的診療業務

別紙「医師臨床研修プログラムの研修分野別マトリックス票」により、基本的診療業務を割り当てるものとする。

【研修方略】

- ・カンファレンスでのプレゼンテーション
- ・ミニレクチャー
- ・手術関連業務、術前・術中・術後管理を行う。
- ・抄読会に参加する。
- ・挿管、気道確保等指導医の指導のもと実施。
- ・術前・術後の回診。

評価方法

1. 研修医は自己評価を EPOC2 に記入する。
2. 各科研修終了時に研修責任者が各科研修評価表 (EPOC2) に記載する。
3. 各科研修終了時に看護部、コメディカルは研修医評価票に記載する。
4. 2 年修了までに「症例レポート（病歴要約）」を提出する。

心臓血管外科（板橋中央総合病院）

一般目標

将来、救急医療の場で活躍できる良き医師となるために、心臓血管外科領域における基本的臨床能力（態度、知識、技能）を身に付ける。

到達目標

A. 医師としての基本的価値観（プロフェッショナリズム）

各科共通項目

B. 資質・能力

各科共通項目とする。

C. 基本的診療業務

別紙「医師臨床研修プログラムの研修分野別マトリックス票」により、基本的診療業務を割り当てるものとする。

研修方略

- 1) 主治医とペアを組み副主治医として患者を担当する。
- 2) 毎朝カンファレンスにて全患者のプレゼンテーションを行う。
- 3) 病棟回診を主治医と行う。
- 4) 患者、家族に対するインフォームドコンセントの場に同席する。
- 5) 可能な限り多くの定時手術、緊急手術に助手として参加する。
- 6) 主治医とともにICUでの術後管理を行う。
- 7) 興味深い症例について外科集談会、胸部外科学会地方会、血管外科症例検討会等で症例報告を行う機会を得る。

評価方法

1. 研修医は自己評価をEPOC2に記入する。
2. 各科研修終了時に研修責任者が各科研修評価表(EPOC2)に記載する。
3. 各科研修終了時に看護部、コメディカルは研修医評価票に記載する。
4. 2年修了までに「症例レポート（病歴要約）」を提出する。

皮膚科（板橋中央総合病院）

一般目標

皮膚科的領域のみならず、一般的全身管理また救急医療においても、皮膚科領域において協力できるような臨床能力を身に付ける。

到達目標

A. 医師としての基本的価値観（プロフェッショナリズム）

各科共通項目

B. 資質・能力

各科共通項目とする。

C. 基本的診療業務

別紙「医師臨床研修プログラムの研修分野別マトリックス票」により、基本的診療業務を割り当てるものとする。

研修方略

- I. 臓器としての皮膚の構造、機能を知り身体における役割を理解する。
ありふれた皮膚疾患の病態を理解しながらその取り扱いを習得する。
見逃すことが患者の著しい不利益につながる皮膚疾患の診断と取り扱いを理解する。
内臓疾患と皮膚疾患との関連について理解する。
- II. 救急外来で皮膚科領域の患者に対応できる。
 1. 熱傷患者の重症度判定ができる。
 2. 熱傷患者についての入院適応、転送の必要性について判断できる。
 3. 熱傷処置の基本的な手技を理解し実施できる。
 4. 蕁麻疹についての重症度判定ができる。
 5. 蕁麻疹についての一般的な治療ができる。
- III. 日常ありふれた皮膚科疾患についての対応ができる。
 1. 皮膚症状としての発疹について、病因論的に考えることができる。
 2. 湿疹・皮膚炎群については、症状の正確な診断を行い痒感の有無感を聞き取り適切にカルテに記載できる。
 3. 軟膏治法特にステロイド外用剤の適応、使用法、副作用などを理解し適切な使用ができる。
 4. 皮膚の真菌症診断のため、真菌検査をすることができる。
 5. 皮膚の細菌感染症の診断、治療ができる。
 6. 薬疹、アレルギー疾患の可能性を疑うとき、適切な問診ができる。
 7. 皮膚良性腫瘍、悪性腫瘍の鑑別診断の要点を理解する。
 8. 褥瘡について症状により適切な治療を選択できる。

評価方法

1. 研修医は自己評価を EPOC2 に記入する。
2. 各科研修終了時に研修責任者が各科研修評価表 (EPOC2) に記載する。
3. 各科研修終了時に看護部、コメディカルは研修医評価票に記載する。
4. 2年修了までに「症例レポート (病歴要約)」を提出する。

耳鼻咽喉科 (板橋中央総合病院)

一般目標

全人的医療を実践できる医師となる為に、耳鼻咽喉科領域における基本的臨床能力を身に付ける。

到達目標

A. 医師としての基本的価値観 (プロフェッショナリズム)

各科共通項目

B. 資質・能力

各科共通項目とする。

C. 基本的診療業務

別紙「医師臨床研修プログラムの研修分野別マトリックス票」により、基本的診療業務を割

り当てるものとする。

研修方略

- ・ 専門医指導のもと救急患者の初期対応・入退院の対応を行い基本的診療手技を身に付ける。
①外来②病棟回診③検査実習の手術関連業務（指導医の下、術前・術中・術後管理を行う）。
- ・ 嚥下内視鏡検査の実施。
- ・ 指導医、上級医のもと手術を経験する。
- ・ 退院時のサマリー作成とチェック。
- ・ 外来にて検査実施。

評価方法

1. 研修医は自己評価を EPOC2 に記入する。
2. 各科研修終了時に研修責任者が各科研修評価表 (EPOC2) に記載する。
3. 各科研修終了時に看護部、コメディカルは研修医評価票に記載する。
4. 2 年修了までに「症例レポート（病歴要約）」を提出する。

放射線科（板橋中央総合病院）

一般目標

画像診断が必要な病態、患者さんを見極め。その都度適切なモダリティを選択し、所見を解釈できるようにする。

到達目標

A. 医師としての基本的価値観（プロフェッショナリズム）

各科共通項目

B. 資質・能力

各科共通項目とする。

C. 基本的診療業務

別紙「医師臨床研修プログラムの研修分野別マトリックス票」により、基本的診療業務を割り当てるものとする。

研修方略

- ・ 医療被爆資料を与え、自己の今後の画像診断の行い方などについてレポートを提出。
- ・ 毎日与えられた 10～20 症例について、検査の目的、検査が目的に對し的確に行われたかどうか、その所見、検査が診療上どのように有用であったかを各症例ごとにレポートする。
- ・ マンツーマンで単純 X 線写真の読影トレーニングを行うことがある。

評価方法

1. 研修医は自己評価を EPOC2 に記入する。
2. 各科研修終了時に研修責任者が各科研修評価表 (EPOC2) に記載する。
3. 各科研修終了時に看護部、コメディカルは研修医評価票に記載する。
4. 2 年修了までに「症例レポート（病歴要約）」を提出する。

精神科（西八王子病院・成増厚生病院）

一般目標

全人的医療を実践できる医師となる為に、精神科領域における基本的臨床能力（態度・技能・知識）を身に付ける。

到達目標

A. 医師としての基本的価値観（プロフェッショナリズム）

各科共通項目

B. 資質・能力

各科共通項目とする。

C. 基本的診療業務

別紙「医師臨床研修プログラムの研修分野別マトリックス票」により、基本的診療業務を割り当てるものとする。

研修方略

- ・ 副主治医制をとり、受け持った入院患者の退院サマリーを記載し、指導医のチェックをうける。
- ・ 外来診療において指導医に同席する。
- ・ カンファレンスでのプレゼンテーションを行う。

評価方法

1. 研修医は自己評価を EPOC2 に記入する。
2. 各科研修終了時に研修責任者が各科研修評価表 (EPOC2) に記載する。
※EPOC2 へのログインが出来ない指導医に対しては、板橋中央総合病院 臨床研修管理委員会より、紙ベースの評価表を提供し記入することとする。
3. 2 年修了までに「症例レポート（病歴要約）」を提出する。

救命救急センター／小児科（帝京大学医学部附属病院）

一般目標

帝京大医学部附属病院 臨床研修プログラムにおける一般目標 G I O に準じる。

到達目標

A. 医師としての基本的価値観（プロフェッショナリズム）

各科共通項目

B. 資質・能力

各科共通項目とする。

C. 基本的診療業務

別紙「医師臨床研修プログラムの研修分野別マトリックス票」により、基本的診療業務を割り当てるものとする。

研修方略

帝京大医学医学部附属病院 臨床研修プログラムにおける研修方略に準じる。

評価方法

- ・ EPOC2 を用いて評価を行う
- ・ 帝京大医学医学部附属病院 臨床研修プログラムにおける評価方法に準じる。

小児科（日本大学医学部附属板橋病院、イムス富士見総合病院）

一般目標

全人的医療を実践できる医師となる為に、小児科領域における基本的臨床能力（態度・技能・知識）を身に付ける。

到達目標

A. 医師としての基本的価値観（プロフェッショナリズム）

各科共通項目

B. 資質・能力

各科共通項目とする。

C. 基本的診療業務

別紙「医師臨床研修プログラムの研修分野別マトリックス票」により、基本的診療業務を割り当てるものとする。

研修方略

- ・ 副主治医制をとり、受け持った入院患者の退院サマリーを記載し、指導医のチェックをうける。
- ・ 指導医・上級医の指導のもと、一般外来研修を行う。
- ・ カンファレンスでのプレゼンテーションを行う。

評価方法

1. 研修医は自己評価を EPOC2 に記入する。
2. 各科研修終了時に研修責任者が各科研修評価表 (EPOC2) に記載する。
※EPOC2 へのログインが出来ない指導医に対しては、板橋中央総合病院 臨床研修管理委員会より、紙ベースの評価表を提供し記入することとする。
3. 2 年修了までに「症例レポート（病歴要約）」を提出する。

内科（イムス三芳総合病院）

一般目標

全人的医療を実践できる医師となる為に内科領域における基本的臨床能力（態度・技能・知識）を身に付ける。

到達目標

A. 医師としての基本的価値観（プロフェッショナリズム）

各科共通項目

B. 資質・能力

各科共通項目とする。

C. 基本的診療業務

別紙「医師臨床研修プログラムの研修分野別マトリックス票」により、基本的診療業務を割り当てるものとする。

研修方略

・内分泌、糖尿病、甲状腺についても指導医の指導のもと学ぶ。

1) 通常外来

- a) 通常の初診外来を指導医とともに経験する。
- b) 内科において、指導医とともに外来患者の診察を経験する。
- c) 通常外来における基本的指示を経験する。

2) 一般病棟業務

- a) 病棟担当指導医とともに、入院患者の診察、処置、患者説明、家族説明を経験する。
- b) 板橋中央総合病院とは違う約束で動いているシステムを経験して、色々なシステムに対応できるようになる。

3) 検査、処置、治療、手術など

- a) 必要に応じて、指導医の管理下に置いて、各種検査、処置、治療、手術を経験する。

4) カンファレンス、医局会、勉強会などは適時情報提供し、参加できるよう配慮する。

評価方法

1. 研修医は自己評価を EPOC2 に記入する。

2. 各科研修終了時に研修責任者が各科研修評価表 (EPOC2) に記載する。

※EPOC2 へのログインが出来ない指導医に対しては、板橋中央総合病院 臨床研修管理委員会より、紙ベースの評価表を提供し記入することとする。

3. 2年修了までに「症例レポート（病歴要約）」を提出する。

外科（常磐病院）

一般目標

外科については、一般診療において頻繁に関わる外科的疾患への対応、基本的な外科手技の習得、周術期の全身管理などに対応するために、幅広い外科的疾患に対する診療を身に付ける。

到達目標

A. 医師としての基本的価値観（プロフェッショナリズム）

各科共通項目

B. 資質・能力

各科共通項目とする。

C. 基本的診療業務

別紙「医師臨床研修プログラムの研修分野別マトリックス票」により、基本的診療業務を割り当てるものとする。

研修方略

1. 外来、病棟において指導医と共に診療に当たり、副主治医となる。
2. 専門医の指導のもと救急搬送患者の初期対応を行い、基本的手技を身に付ける。
3. OJTによる上級医・指導医と共に受け持ち患者の回診をする（病棟回診）。
4. 入門コースで研修した事項のうち、下記の内容は各科において繰り返し復習して自信を持って出来るように身に付ける。

具体的な研修内容

1) 基本的身体診療法

全身状態（特にバイタルサイン）の把握ができ、各部位の視診、聴打診、触診、神経反応ができる。精密眼底検査も行える。

2) 診療の基本的手技

気道確保・人工呼吸ができる。

心マッサージ・直流除細動等 CRP ができる。

皮内・皮下・筋肉・静脈注射ができる。

末梢静脈路・中心静脈の確保ができる。

静脈・動脈からの採血ができる。

血圧測定及びその評価ができる。

心電図の測定・判読ができる。

3) 基本治療法

療養指導（安静度・食事・入浴・排泄など）と疾患・病態に応じた薬物療法ができる。

輸液・輸血ができる。

週間予定

	8:30	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00
月曜日	病棟回診	手術			昼食	手術・下部内視鏡				
火曜日	病棟回診	外来			昼食	下部内視鏡				
水曜日	8:00～カンファレンス・手術				昼食	手術				

木曜日	8:00～カンファレンス・外来	昼食	外来
金曜日	病棟回診 手術	昼食	手術

評価方法

1. 研修医は自己評価を EPOC2 に記入する。
 2. 各科研修終了時に研修責任者が各科研修評価表 (EPOC2) に記載する。
- ※EPOC2 へのログインが出来ない指導医に対しては、板橋中央総合病院 臨床研修管理委員会より、紙ベースの評価表を提供し記入することとする。
3. 2年修了までに「症例レポート (病歴要約)」を提出する。

内科 (常磐病院)

一般目標

内科については入院患者の一般的・全身的な診療ケア、および一般診療で頻繁に関わる症候や内科的疾患に対応するために、幅広い内科的疾患に対する診療を身に付ける。

外来研修は症候・病態について適切な臨床推進プロセスを経て解決に導き、頻度の高い慢性疾患の継続診療を行うために、特定の症候や疾病に偏ることなく、原則として初診患者の診療及び慢性疾患の継続診療を身に付ける。

到達目標

A. 医師としての基本的価値観 (プロフェッショナリズム)

各科共通項目

B. 資質・能力

各科共通項目とする。

C. 基本的診療業務

別紙「医師臨床研修プログラムの研修分野別マトリックス票」により、基本的診療業務を割り当てるものとする。

研修方略

1. 外来、病棟において指導医と共に診療に当たり、副主治医となる。
2. 専門医の指導のもと救急搬送患者の初期対応を行い、基本的手技を身に付ける。
3. OJTによって、上級医・指導医と共に受け持ち患者の回診をする (病棟回診)。

具体的な研修内容

1) 基本的身体診療法

全身状態 (特にバイタルサイン) の把握ができ、各部位の視診、聴打診、触診、神経反応ができる。精密眼底検査も行える。

2) 診療の基本的手技

気道確保・人工呼吸ができる。

心マッサージ・直流除細動等 CRP ができる。

皮内・皮下・筋肉・静脈注射ができる。

末梢静脈路・中心静脈の確保ができる。

静脈・動脈からの採血ができる。

血圧測定及びその評価ができる。

心電図の測定・判読ができる。

3) 基本治療法

療養指導（安静度・食事・入浴・排泄など）と疾患・病態に応じた薬物療法ができる。
輸液・輸血ができる。

週間予定

	8:30	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00
月曜日	病棟回診	外来			昼食	病棟業務				
火曜日	病棟回診	病棟業務			昼食	病棟業務				
水曜日	病棟回診	病棟業務			昼食	病棟業務				
木曜日	病棟回診	病棟業務			昼食	病棟業務				
金曜日	病棟回診	外来			昼食	病棟業務				

評価方法

1. 研修医は自己評価を EPOC2 に記入する。
 2. 各科研修終了時に研修責任者が各科研修評価表 (EPOC2) に記載する。
- ※EPOC2 へのログインが出来ない指導医に対しては、板橋中央総合病院 臨床研修管理委員会より、紙ベースの評価表を提供し記入することとする。
3. 2年修了までに「症例レポート（病歴要約）」を提出する。

泌尿器科（常磐病院）

一般目標

泌尿器科疾患の一般的診療内容や腎・膀胱・前立腺・外陰部などの特殊部位の治療の流れを理解する。泌尿器科の一般診療に必要な基本的態度、技能、知識を学び、医師として必要な基本的臨床能力を習得する。

到達目標

A. 医師としての基本的価値観（プロフェッショナリズム）

各科共通項目

B. 資質・能力

各科共通項目とする。

C. 基本的診療業務

別紙「医師臨床研修プログラムの研修分野別マトリックス票」により、基本的診療業務を割り当てるものとする。

研修方略

- 1) 泌尿器科一般外来の処置、診察を指導医とともに行う。
- 2) 入院患者の担当医として、指導医とともに患者を受け持つとともに、回診およびカンファレンスでプレゼンテーションを実施する。

- 3) 指導医とともにオンコールを積極的に経験する。
- 4) 手術に参加し、助手を務める。
- 5) 指導医とともに難解な症例を経験する

具体的な研修内容

1) 基本的身体診療法

全身状態（特にバイタルサイン）の把握ができ、各部位の視診、聴打診、触診、神経反応ができる。泌尿器科的な診察法（陰茎、陰嚢内容、前立腺、女性生殖器）ができる。尿路結石や腎盂腎炎時の背部叩打痛が診察できる。

2) 診療の基本的な手技

内科的な診療手技に加えて、指導医の指導のもと、直腸診、女性の台上診ができる。

尿道カテーテル挿入ができる。

ブラッドアクセスの診察ができる。

創部の診察、抜釘ができる。

指導医のもと、画像による診断ができる。

3) 基本治療法

療養指導（安静度・食事・入浴・排泄など）と疾患・病態に応じた薬物療法ができる。

輸液・輸血ができる。

週間予定

	8:30	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00
月曜日	病棟回診	手術			昼食	外来診療・検査・処置				
火曜日	8:00～カンファレンス・手術				昼食	手術			病棟回診	
水曜日	病棟回診	手術			昼食	手術			病棟回診	
木曜日	病棟回診	外来			昼食	手術				
金曜日	病棟回診	外来			昼食	外来				

評価方法

1. 研修医は自己評価を EPOC2 に記入する。

2. 各科研修終了時に研修責任者が各科研修評価表 (EPOC2) に記載する。

※EPOC2 へのログインが出来ない指導医に対しては、板橋中央総合病院 臨床研修管理委員会より、紙ベースの評価表を提供し記入することとする。

3. 2年修了までに「症例レポート（病歴要約）」を提出する。

心臓血管外科・循環器内科（イムス葛飾ハートセンター）

一般目標

心臓血管外科領域および循環器内科領域における診断と治療に必要な基本的臨床能力を身に付け、実践できるようにする。

到達目標

A. 医師としての基本的価値観（プロフェッショナリズム）

各科共通項目

B. 資質・能力

各科共通項目とする。

C. 基本的診療業務

別紙「医師臨床研修プログラムの研修分野別マトリックス票」により、基本的診療業務を割り当てるものとする。

研修方略

- ・主治医とペアを組み副主治医として患者を担当する。
- ・カンファレンスにて患者のプレゼンテーションを行う。
- ・指導医、上級医とともに病棟回診を行う。
- ・患者、家族に対するインフォームドコンセントの場に同席する。
- ・多くの定時手術、緊急手術に参加する（助手）。
- ・病棟業務では、基本的な診療手技や投薬方法を身につけ、検査の意義や治療方針について身に付ける。
- ・主治医とともに術後の管理を行う。

評価方法

1. 研修医は自己評価を EPOC2 に記入する。
2. 各科研修終了時に研修責任者が各科研修評価表 (EPOC2) に記載する。
※EPOC2 へのログインが出来ない指導医に対しては、板橋中央総合病院 臨床研修管理委員会より、紙ベースの評価表を提供し記入することとする。
3. 2年修了までに「症例レポート（病歴要約）」を提出する。

脳神経外科（横浜新都市脳神経外科病院）

一般目標

脳神経外科領域における診断と治療に必要な基本的臨床能力を身に付け、実践できるようにする。

到達目標

A. 医師としての基本的価値観（プロフェッショナリズム）

各科共通項目

B. 資質・能力

各科共通項目とする。

C. 基本的診療業務

別紙「医師臨床研修プログラムの研修分野別マトリックス票」により、基本的診療業務を割り当てるものとする。

研修方略

- ・手術関連業務：指導医の下、術前・術中・術後管理を行う。
- ・病棟回診：上級医・指導医と共に受け持ち患者の回診し、問題点を把握できている。
- ・検査実務：脳血管撮影、腰椎穿刺などにつき手順を学ぶ。
- ・カンファレンスでのプレゼンテーション
- ・患者、家族に対するインフォームドコンセントの場に同席する。
- ・多くの定時手術、緊急手術に参加する。
- ・指導医・上級医のもと多くの手技も経験すること。

評価方法

1. 研修医は自己評価を EPOC2 に記入する。
2. 各科研修終了時に研修責任者が各科研修評価表 (EPOC2) に記載する。
※EPOC2 へのログインが出来ない指導医に対しては、板橋中央総合病院 臨床研修管理委員会より、紙ベースの評価表を提供し記入することとする。
3. 2年修了までに「症例レポート（病歴要約）」を提出する。

地域医療、保健・医療行政（板橋ロイヤルケアセンター・イムス板橋リハビリテーション病院・熱海所記念病院・山本整形外科循環器科・いわき泌尿器科）

一般目標

地域医療を必要としている患者及び家族に、全人的に対応するための、必要な基本的な態度、技能、知識を習得する。

到達目標

A. 医師としての基本的価値観（プロフェッショナリズム）

各科共通項目

B. 資質・能力

各科共通項目とする。

C. 基本的診療業務

別紙「医師臨床研修プログラムの研修分野別マトリックス票」により、基本的診療業務を割り当てるものとする。

研修方略

一般外来 通常の初診外来を指導医とともに経験する。

慢性疾患患者の継続診療についても経験する

通常外来における基本的指示を経験する。

※地域医療責任医師、指導医の指導のもと外来患者の診察を行う。

病棟業務 病棟担当指導医とともに、入院患者の診察、処置、患者説明、家族説明を経験する。

在宅医療 指導する医師同行のもと、訪問診療を行う。

評価方法

1. 研修医は自己評価を EPOC2 に記入する。

2. 各科研修終了時に研修責任者が各科研修評価表 (EPOC2) に記載する。

※EPOC2 へのログインが出来ない指導医に対しては、板橋中央総合病院 臨床研修管理委員会より、紙ベースの評価表を提供し記入することとする。

3. 2年修了までに「症例レポート（病歴要約）」を提出する。

処遇

身分 常勤職員(嘱託)

給与 1年目 300,000 円/月

2年目 320,000 円/月

当直 3～4 回/月

【当直手当】

1年目 10,000 円/回

2年目 12,000 円/回

研修医宿舎 借り上げ宿舎有り(独身寮のみ)

研修医室 研修医医局及び研修医専用当直室有り

※アルバイト診療は禁止とする